

2006 年 12 月プレスリリース
山口情報芸術センター(YCAM) presents

平成 18 年度公共ホール演劇製作ネットワーク事業



ブケッティーノ

“Buchettino – The Story of Thumbkin”

ベッドで ねながら きく おしばい

原作 シャルル・ペロー
演出 キアラ・グイディ
音響デザイン・美術デザイン ロメオ・カステルッチ
オリジナル版脚色 クラウディア・カステルッチ
オリジナル版チーフ・ノイズメーカー カルメン・カステルッチ
オリジナル版企画製作 Societas Raffaello Sanzio ソチエタス・ラファエロ・サンツィオ

出演 ともさと衣

山口公演 2007 年 2 月 22 日 (木) ～25 日 (日)

山口情報芸術センター スタジオ B

山口情報芸術センターでは、ベッドで聞くまったく新しいお芝居『親指こぞうーブケッティーノ』
を上演します。本公演は、財団法人地域創造の「公共ホール演劇製作ネットワーク事業」として実

施するもので、全国から参加した 10 団体が企画製作し、神奈川県民ホールから山口情報芸術センターまで、全国 10 ヶ所・計 70 ステージを上演いたします。

親指こぞう——ブケッティーノ

平成18年度公共ホール演劇製作ネットワーク事業

■公共ホール演劇製作ネットワーク事業とは

「公共ホール演劇製作ネットワーク事業」は、財団法人地域創造と全国の公共ホールが、演劇作品を企画・製作するもので、丁寧なプロデュースでクオリティの高い舞台を実現しています。また、作品上演だけでなく、ワークショップなどの関連事業も実施し、演劇の普及にも貢献しています。平成 11 年度にモデル事業として始まったこの事業は、その後毎年話題作を上演し、各公演ともに高い評価をいただく事業として好評を得ました。本年度は、全国 10 ヶ所で『親指こぞう——ブケッティーノ』の上演が決定。イタリアをはじめ世界各地で上演されていた作品の日本版として、2005 年に神奈川県民ホールギャラリーで初演された話題作です。

■『親指こぞう——ブケッティーノ』について

『親指こぞう』の劇場は、小さな茶色の木の箱です。赤いカーテンをくぐって中に入ると、あるものは、たくさん小さなふるぼけたベッドと裸電球がひとつだけ。なんだかすごくいい匂いがする。おねえさんが優しく「ベッドに横になって…毛布にもぐりこんで…お話の時間だよ」と声をかけてくれる。パパとママも先生たちもベッドに横になっている。さあ、お姉さんのお話がはじまった。「むかしむかし、あるところに、貧しい木こりの夫婦がいました…」。お話のあいだ、家の扉があくところでは、「ギューッ、ギューッ」と本物の音になるし、森の中をさまよい歩いているときは、落ち葉を踏みしめる音が「カサ、カサ」と聞こえてくる。うわあっ、人喰い鬼の家に、迷いこんじゃった！それじゃあ、この「ゴツツン、ガタ、ゴツツン、ガタッ」という足音はもしかしたら、人喰い鬼の足音！？…

『親指こぞう』では、すべての演出効果は、「聴覚」を中心にした「知覚」に訴えるものになっています。約 1 時間の上演時間のあいだに、3 人の音響係が休みなく、約 300 以上のキューにしたがって、生の音で効果を演出します。こうして子供も大人も、飽きることなく、お話を聞いていられるのです。「聞く」という行為は、コミュニケーションの基本。徹底して「聞く」ことにこだわったお芝居——これが『親指こぞう』です。子供たち、そして大人たちにも、「聞く」ことはこんなに楽しいものなのか、と「芝居をみることの基本コース（かつ上級コース）」で感じてもらえれば何よりうれしいです。

■『親指こぞう——ブケッティーノ』あらすじ

ある貧乏な木こりの夫婦には 10 歳をかしらに 7 歳の末っ子まで 7 人の男の子たちがいました。一番下の末っ子は、うまれたときから体が小さく、どんな小さな穴にでももぐれることから、みんなに＜ブケッティーノ＞（イタリア語で「小さな穴」の意）と呼ばれていました。ある日、貧しい生活に耐えかねて、木こり夫

婦は、子供たちを森のなかに置き去りにしました。一度はブケッティーノの機転で、家に帰りついた子供たちでしたが、二度目は、おおあらしの夜、山の中で人食い鬼の家に迷い込み…。それでも一番みそっかすなちびの末っ子の智恵のおかげで困難をのりこえ、7人は無事に家に帰りつき、さらに一家は大金持ちになる…というお話です。何もできないと思われていたちびっ子が一家を救うこともある、黙っている子は考えているのだよ…という教訓がこめられた、ちょっとこわいけどハッピーエンドのお話です。

■日本初演時の劇評

——声と音によって、それぞれの頭の中に自分だけの物語の世界が生まれる。並んだベッドの中で子どもたちは、一人ひとりの小さな冒険をしている。(朝日新聞 2005 年 2 月 18 日)

——部屋が生き物のように震え、あらゆるところから音が響いてくる。視覚情報に頼らないことで、これほど五感が豊かになるとは思わなかった。(地域創造レター 2005 年 2 月 25 日)

■『親指こぞう』とシャルル・ペローについて

シャルル・ペロー (1628-1703) は、フランスの詩人、作家。裁判官の息子としてパリに生まれました。みずからも法律を学び、官職につき、ルイ 14 世の大臣コルベールの協力者として活躍。引退後、ペローの童話としていま世界中で読まれている 8 つのお話『眠りの森の美女』『赤頭巾ちゃん』『青ひげ』『長靴をはいた猫』『妖精たち』『シンデレラ』『巻き毛のリケ』『親指こぞう』が「過ぎた昔の物語またはお話集・教訓付き」という題でまとまって刊行されたのは 1697 年。この題に「過ぎた昔…」とあるように、ペローの童話は、基本的には長いこと語り継がれてきた民話をもとにしています。ペローのおよそ百年余り後にドイツでグリム兄弟がグリム童話を刊行したことになります。

■『親指こぞう』を上演したイタリアのソチエタス・ラファエロ・サンツィオについて

ソチエタス・ラファエロ・サンツィオは、イタリアのエミリオ・ロマーニャ州チェゼーナ市のテアトロ・コマンディーニを活動の拠点とする創作集団。1981 年に、当時美術学校の学生だったロメオ・カステルッチと、キアラ・グイディ、これにロメオの姉のクラウディア・カステルッチが加わり設立。彼らの 3 年がかりの作品 "Tragedia Endogonidia" (2002—2004) には、フランスのアビニョン・フェスティバル、ベルリンのヘッベル・シアター、ブリュッセルのクンステン・フェスティバル、ベルゲン国際フェスティバル、パリのフェスティバル・ドートンヌとオデオン座、ローマユーロッパ・フェスティバル、ロンドン国際演劇祭…などヨーロッパの強力なフェスティバルや劇場など、9 つの主催者が共同製作をしているという、**いまヨーロッパでもっとも注目を集めている劇団のひとつ**。その作品は、美術作品のインスタレーションのようにミニマルだが不思議な生命感にあふれた空間の下、俳優のみならず、素人や動物など、物理的な身体をそこに存在さしめるものにあふれ、無意識と空間が有機的に行き交うという世界のほかのどこにもない舞台です。その劇団が、一方で、大人も子供も一緒に楽しめる芝居を作っています。なかでも『親指こぞう』は、パリのシャイヨー宮、ベルギーのクンステン・フェスティバル、カナダ公演、ブラジル公演、イタリア国内公演等、世界各地で上演されている人気作品です。

■演出 キアラ・グイディ Chiara Guidi

1960 年チェゼーナ生まれ。ボローニャ大学で現代文学を学ぶ。ソチエタス・ラファエロ・サンツィオでは、おもにドラマチック・リズムとよぶ音楽的な構成やドラマ構成を担当。俳優としても参加し、ヴォーカルワークの教師も務める。96—97 年に「子供のための実験学校」を開き、出版やシンポジウムなどの活動も行う。「子供のための実験学校」にて 98 年、イタリア児童演劇特別ユビュ賞を受賞。

■音響および美術デザイン ロメオ・カステルッチ Romeo Castellucci

ロメオ・カステルッチは、キアラ・グイディやクラウドディア・カステルッチとラファエロ・サンツィオを創設。演出家として、シェイクスピア（『ジュリアス・シーザー』『ハムレット』等）やギリシャ悲劇（『オレスティア』等）、神話（『ギルガメッシュ』）などの古典を独自の解釈により、美しい美術空間をもったまったく新しい作品として生まれ変わらせ、ヨーロッパ各地で絶賛を浴びる。11都市でそれぞれ新作初演している作品『Tragedia Endogonidia』は、「純粋なる原始のエッセンスや、動物的なまでの身体」に満ちた「すべてが極めて演劇的に表現された、おどろくべき作品」と評されている。（2005年ヴェネチア・ビエンナーレ演劇部門ディレクター）

■出演 ^{ころも}ともさと衣

このお芝居の出演者は、お話をするお姉さんひとり。ともさと衣は、早稲田大学在学中に、俳優座研究生となり、その後1998年に、東京乾電池の『カメレオン会議』のオーディションを700倍の倍率のもと合格。おもな舞台出演作に『四谷怪談』（ヨッシ・ヴィーラー演出。山口情報芸術センターおよびドイツ公演。）、『見よ、飛行機の飛べるを』（アントワーン・コーベ演出）、『たしあたま』（竹内統一郎演出）、『ミレナ』（佐藤信演出）、『りぼん』（渡辺えり子演出）など。NHK「ドイツ語講座」にも出演。



■公演概要

親指こぞう——ブケッティーノ

平成18年度公共ホール演劇製作ネットワーク事業

日時：2007年2月22日（木） 17:00開演

23日（金） 14:00開演、17:00開演

24日（土） 11:00開演、14:00開演

25日（日） 14:00開演（受付は開演の30分前より、開場は開演の5分前）

会場：山口情報芸術センター スタジオB

料金：全席自由 小学生 1,000円 一般 2,000円 any会員/学生/特別割引 1,500円

※未就学児のご入場はご遠慮ください。

チケット情報: any会員先行予約 12月9日（土）～

山口市文化振興財団チケットインフォメーション 083-920-6111

※10:00～19:00 火曜休館（12月29日～1月3日は年末年始休館）

プレイガイド発売 12月16日（土）～

ローソンチケット 0570-084-006（Lコード 62525）

【演出】キアラ・グイディ

【音響デザイン・美術デザイン】ロメオ・カステルッチ

【オリジナル版脚色】クラウドディア・カステルッチ

【オリジナル版チーフ・ノイズメーカー】カルメン・カステルッチ

【オリジナル版企画製作】ソチエタス・ラファエロ・サンツィオ

【出演】^{ころも}ともさと衣

【原作】 シャルル・ペロー
【翻訳】 とよしま洋
【演出補】 遠藤吉博
【日本版音響】 相川晶／畠山慎一（サウンド・ウィーズ）
【舞台監督】 有馬則純（ニケステージワークス）
【日本版チーフ・ノイズメーカー】 田畑祭（ニケステージワークス）
【大道具製作】 櫻井俊郎／二本松智子（C-COM）

【宣伝美術】 吉澤正美
【宣伝イラストレーション】 伊藤明子

【企画・製作】 財団法人神奈川芸術文化財団、財団法人つくば都市振興財団、
財団法人せたがや文化財団、財団法人びわ湖ホール、山口情報芸術センター
高知県立美術館、「子ども達に創造の舞台を！」実行委員会
財団法人大野城都市施設管理公社、アルカス SASEBO、財団法人宮崎県立芸術劇場
【共催】 財団法人地域創造 公共ホール演劇製作ネットワーク事業
【助成】 全国モーターボート競走施行者協議会
平成 18 年度文化庁芸術拠点形成事業（山口公演）
【日本版初演プロデュース】 財団法人神奈川芸術文化財団

■特別割引について

特別割引は、青少年(18歳未満)、シニア(65歳以上)、障がい者及び同行の介護者1名が対象。
山口情報芸術センター、山口市民会館、山口南総合センターのみの販売となります。

■託児サービス

対象：0才(6ヶ月)以上 託児時間;開演の30分前から終演後30分後まで

料金：お子様1人につき500円、2人目以降は1人につき300円

申込方法：2月15日(木)までに上記チケットインフォメーションまでお申し込みください。

<山口情報芸術センター(YCAM)へのアクセス>

■山口宇部空港から

・乗合タクシーで YCAM まで 約 1 時間(1500 円)

※前日 18:00 までに予約が必要 大隅タクシー0120-31-0860

・空港連絡バスで JR 新山口駅まで 30 分(870 円)

■JR 新山口駅から

・JR 山口線湯田温泉駅下車、徒歩 20 分／タクシー5 分

・JR 山口線山口駅下車、徒歩 20 分／バス 10 分(中園町か済生会病院前下車)／タクシー5 分

・防長バス 25 分、中園町下車

■自動車利用

・山陽自動車道で防府東 IC から 30 分・九州・中国自動車道で小郡 IC から 15 分

<お問い合わせ>

山口情報芸術センター（企画担当：岸、四元 広報担当：小滝）

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2212

E-MAIL: information@ycam.jp <http://www.ycam.jp/>

〒753-0075 山口市中園町 7-7